

札幌市環境プラザ運営協議会 令和5年度第2回実施概要

1 日 時 令和 6 年 2 月 6 日（水）18：00～20：00

2 会 場 札幌市環境プラザ

3 出席者

（1）委 員：吉田委員、大沼委員、井川委員、崎川委員、飯岡委員、福田委員、五十嵐委員

（2）札幌市：環境局環境政策課環境教育担当係長、環境政策課推進係 係員

（3）事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、市民参画課係長、主任職、一般職員 2 名

4 会議次第

（1）開会

（2）あいさつ 札幌市環境局 環境都市推進部 環境政策課長 飯岡 慶崇 様

（3）運営協議会について

（4）委員自己紹介、近況報告

（5）議事

- ・ 令和 5 年度事業報告および令和 6 年度事業計画の説明

- ・ 意見交換

環境プラザが今後つながるべき団体・組織について

（6）あいさつ 札幌エルプラザ公共 4 施設館長 五十嵐 健二

（7）閉会

5 議 事

・ 令和5年度事業報告および令和6年度事業計画の説明

事務局から令和 5 年度の事業報告および令和 6 年度事業計画・中間報告を行った。

その他、施設の利用状況についても報告を行い、コロナ禍からの利用者数の変化、昨年度のとの比較を報告した。

○質問 環境プラザ主催こどもエコクラブあそエコ団は何人ぐらいの参加があるのか、また年度内何回実施しているか。

○回答 20人で構成しており、各回ごとに欠席があるため15人～20人程度で活動している。年度内9回開催予定となっている。

○質問 脱炭素がテーマののゲーム開発を合同会社エゾリンク協働しているが、実際の運用についても連携していくのか。また、対象年齢はどうか。

○事務局 次年度からの見学ツアーで、環境プラザ職員が提供を行う。見学ツアーの主な利用者層は小学校中学年くらいが多いので、そのくらいの年齢層を対象にアクティビティー開発を進めているが、中高生でも楽しめる内容になっている。

・意見交換

環境プラザが今後つながるべき団体・組織について

現在環境プラザがつながりを持つ団体・組織の説明と、それぞれの事業展開について説明し、連携を行うと良いと考える団体・組織や取り組みの事例について意見をいただきたい旨を説明した。

○意見 広げていくという視点もあるが今ある現状を深めていくという視点も重要なのではないかな。

いろいろなアクティビティーをブラッシュアップし、産学官の連携で毎年継続した取組を行う事で、定点観測みたいな形で、参加者とのつながりもでき、環境の変化についてもデータを取ることができる。大学の研究の一環として、世界に発信していくことができるのではないかな。そういった取組を札幌市と環境プラザと市民と大学で連携してできたらいいのではないかな。

その中に、官の役割として、取り組みから出された具体的な提案やアイデア、方法論を提言し、札幌市のほうで提言を受けて、それを施策にどのように反映していければ、自分たちがやった価値、やることの意味が見いだされるのではないかな。

環境プラザが世界に発信していくところになるといいと考えている。

○意見 提案というより、伺いたいことになります。

環境プラザは環境を伝えていく拠点施設なので、様々なところともって積極的につながって行って行くべきだと考える。環境に関わる方々が集まって情報交換できる場所になることでつながる側のメリットも出てくるのでそこが目指すべき一つなのだと思う。

環境プラザ自身が感度高く、先進的なところと取組や勉強会をやるなどして絡むほうが、付随して参加者やつながってくる団体や企業も増えてくると考える。

○意見 企業では消費、ファッションの観点だと、無印良品やLUSHは環境に関して感度の高い店員多い。

気候変動関連では、パタゴニアが今ちょうど気候変動のトーク&セッションイベントをやっている。パタゴニアの直営店全てで、気候変動に関するトーク&セッションイベントをやっている。

もう一つ、海洋ごみ・海洋汚染関連では、すすきのにできたA O A Oも環境教育に関心があり、取り組みの必要性を感じているようだった。せっかく近郊にあるので、そことのコラボを持ちかけるのもよいのでは。

○意見 高校生の学習等でも総合的な探究の時間で高校生が環境に取り組みながら、様々な課題を探究していくというような実践は市立の高校で既に取り組まれている。

高校生としては、実際に学習したことを、環境教育を学んだ立場として、こういう問題を知ってほしいという目的で成果物をつくって取り組むが、どこを対象にしていかが分からないという課題もある。

そうしたところをうまく拾い、相談の窓口になって支援してもらえると高校生としてもとてもうれしいし、そのフィードバックを基にまた探求できるということで、ありがたい。

また、今、札幌市教育委員会では、子どもたちの資質、能力を育成するということで課題探究的な学習に加えて、自治的な活動にも重きを置いている。

自治的な活動では、子どもたちの意欲を基に地域や校内の環境に目を向けて環境保全活動に取り組んでいる。その意欲を深めるため、活動を促すような投げかけがさまざまできるのではないかと。

子どもたちの環境に対する関心を高めていくことを私たちも大切にしたいと考えている。

専門家の方や詳しい方から聞くことが子どもたちにとっては非常に意味が大きい。

学校の教員は、学習の内容をどれだけ子どもたちに深く学ばせるかという視点で動いているため、何かのイベントのときに、こういう学習内容と位置づけて活用できる、といった周知を図ると、意外と目に留まってつながりが増えると考えられる。

子どもとつなげるために私たちも協力できることがあれば、一緒に考えさせてもらいたい。

○意見 つながる先はたくさんあるが、何をするかを考えるのは少し難しいのです。

先ほど崎川委員が意見にあったように、環境プラザがつながりを吸い寄せる「強さ」とは何かを理解しながら進めないと広がるだけになってしまう。それは違うと思う。

それから、先ほど新保委員の意見にあったように、広げることと、深めることの両方を考えるのもそうで、今はどういう局面なのか。広げることととにかくやるモードと、深めることをとにかくやるモードがあって、どちらかだけ取り組むことはないと思うが、それを意識しないと、やってみて終わってしまいかねない。

例えば、海ごみの問題は市民の関心も広がっており、いろいろなところでごみ拾いしていただいて、それはすごくありがたいことだと思う一方、どうやって継続したらいいかを迷っていると思う。

一発芸的に動員をかけるのであれば、マスコミは強い力を持っているので、HBCや道新等の力を借りることも考えられる。

とにかく、数が大事だというイベントにはそういうものをもっと使ったらいいと思うが、盛り上がった後をどうするかを考えるのであれば、本当にこつこつと何年取り組みを続けてきた方ときちんとつながっていくことも大事なので、両方のチャンネルを意識する良い。

また、民間企業とつながるのであれば、環境プラザから、お金は出せないけれども、直接的にお金は稼げないけれども、こういうことができるという提案をし、うまく一緒にやっていけるといいのかなと思う。

環境プラザは、青少年などのラインだし、児童館とのつながりも強いので、あちこちに

ちょこちょことあるゲリラ戦的な強さがある。ただ、そこを民間企業とのつながりで生かせるかと言われると、ちょっと難しい部分もある。

環境プラザの強みというのはそういうところだと思うので、そのチャンネルの強さとうまく生かし合えるマッチング検討すると良いのでは。

○意見 今、子どもたちに対する環境やごみの普及啓発についてお話をしているが、ごみを出すのは大体が大人なので本当は大人にも環境教育が必要ではないかなと考えている。

○意見 こういうテーマでもっと意見交換ができればありがたい。

コロナの4年間ぐらいの中で、いろいろな団体との関わりが、希薄になってしまった。

コロナ前を思い出してみると、いろいろな団体が関わりをもっと深く持っていたように感じる。

今は、新しい技術を用いながらいろいろな形で交流をしていくということもあるでしょうから、それはどんどん生かしていけばいいと思う。

以 上